

特別支援教育編

2 実態把握のためのチェックリストの活用

実態把握チェックリストは、「指導しづらい」と感じている児童生徒や「少し気になる」という児童生徒について、生活や学習の様子を複数の目でチェックし実態把握に活用するものです。「もしかしたら発達障がいの特徴があるかもしれない」という視点で児童生徒を見つめ直すことで、これまで気付かなかった児童生徒自身の困っている状況が分かる場合もあります。さらには、児童生徒の行動の意味や背景を探り、対応の仕方や支援の方向性を考える手がかりとしても活用できます。

特別支援教育「実態把握チェックリスト」

このチェックリストは「今後の特別支援教育の在り方について」(最終報告)の中の参考資料を基に作成したものです。気になる子どもの実態把握のために使います。下の基準に該当する場合は、特別な教育的支援を必要としていると考えられます。校内委員会で協議して、その子にあった支援を考えていきましょう。

- 1～6・・・少なくとも一つの領域で、合計12ポイント以上の場合
 7と8・・・少なくとも一つの領域で、合計6ポイント以上の場合
 9・・・合計22ポイント以上の場合

年組
氏名

1 聞く (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	番号=ポイント
1 聞き間違いがある。(「知った」を「いった」と聞き間違える)	
2 聞きもらしがある。	
3 個別に言われると聞き取れるが、集団指示では難しい。	
4 指示の理解が難しい。	
5 話合いが難しい。(話合いの流れが理解できず、ついていけない)	
聞く合計ポイント	0
2 話す (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	
1 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話す。とても早口である)	
2 ことばにつまったりする。	
3 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。	
4 思いっくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。	
5 内容を分かりやすく伝えることが難しい。	
話す合計ポイント	0
3 読む (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	
1 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。	
2 文中の語句や行を抜かしたり、繰り返し読んだりする。	
3 音読が遅い。	
4 勝手読みがある。(「いきました」を「いました」と読む)	
5 文章の要点を正しく読みとることが難しい。	
読む合計ポイント	0
4 書く (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	
1 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない)	
2 独特の筆順で書く。	
3 漢字の細かい部分を書き間違える。	
4 句読点が抜けたり、正しく打つことが出来ない。	
5 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない。	
書く合計ポイント	0
5 計算する (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	
1 学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい。(三千四十七を300047と書く)	
2 簡単な計算が暗算で出来ない。	
3 計算をするのにとっても時間がかかる。	
4 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。(四則混合の計算など)	
5 学年相応の文章題を解くのが難しい。	
計算合計ポイント	0
6 推論する (0:ない, 1:まれにある, 2:ときどきある, 3:よくある)	
1 学年相応の量の比較や量を表す単位の理解が難しい。(長さやかさの比較。「15cmは150mm」等)	
2 学年相応の図形を描くことが難しい。(丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)	
3 物事の因果関係を理解することが難しい。	
4 目的にそって行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい。	
5 早合点や、飛躍した考えをする。	
推論合計ポイント	0

活用にあたっての留意点

- 入学や進学の後でなく、児童生徒の様子が分かってきた頃に実施する。
- 複数の教職員で話し合いながらチェックすると、信頼性のある実態把握になる。
- 実態把握には様々な方法があるので、他の情報も参考にして総合的に把握する。
- チェックした結果をもとに、ケース会議等を開いて支援を検討する。
- 診断するためのものではないことに留意する。

7 「不注意」 (0:ない、 1:ときどきある、 2:しばしばある、 3:ひじょうにしばしばある)			
* 得点換算方法 0と1=0点 2と3=1点		番号入力	ポイント
1	学校の勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする。		0
2	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。		0
3	面に向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える。		0
4	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない。		0
5	学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい。		0
6	集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や課題)を避ける。		0
7	学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう。		0
8	気が散りやすい。		0
9	日々の活動で忘れっぽい。		0
不注意合計ポイント			0
8 「多動一衝動」性 (0:ない、 1:ときどきある、 2:しばしばある、 3:ひじょうにしばしばある)			
* 得点換算方法 0と1=0点 2と3=1点		番号入力	ポイント
1	手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。		0
2	授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。		0
3	きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする。		0
4	遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい。		0
5	じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する。		0
6	過度にしゃべる。		0
7	質問が終わらない内に出し抜けて答えてしまう。		0
8	順番を待つのが難しい。		0
9	他の人がしていることをさえぎったり、じゃまをしたりする。		0
多動一衝動合計ポイント			0
9 「対人関係やこだわり等」 (0:いいえ、 1:多少、 2:はい)			番号=ポイント
1	大人びている。		
2	みんなから「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている。(例:カレンダー博士)		
3	他の子供は興味をもたないようなことに興味があり、「自分だけの世界」を持っている。		
4	特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない。		
5	含みのある言葉や嫌みを言われても分らず、言葉通りに受け止めてしまうことがある。		
6	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり間合いが取れなかったりすることがある。		
7	言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る。		
8	独特な声で話すことがある。		
9	誰かに何かを伝える目的がなくても場面に関係なく声を出す。 (唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)		
10	とても得意なことがある一方で、極端に苦手なものがある。		
11	いろいろなことを話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない。		
12	共感性が乏しい。		
13	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう。		
14	独特な目つきをすることがある。		
15	友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない。		
16	友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる。		
17	仲の良い友人がいない。		
18	常識が乏しい。		
19	球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない。		
20	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある。		
21	意図的でなく、顔や体を動かすことがある。		
22	ある行動や考えに強くこだわってしまい、簡単な日常の活動ができなくなることがある。		
23	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる。		
24	特定の物に執着がある。		
25	他の子どもたちから、いじめられることがある。		
26	独特な表情をしていることがある。		
27	独特な姿勢をしていることがある。		
対人-こだわり合計ポイント			0



このチェックリストは、東部教育局HP「特別支援教育の推進コーナー」に、電子データで掲載しています。ぜひご利用ください。